

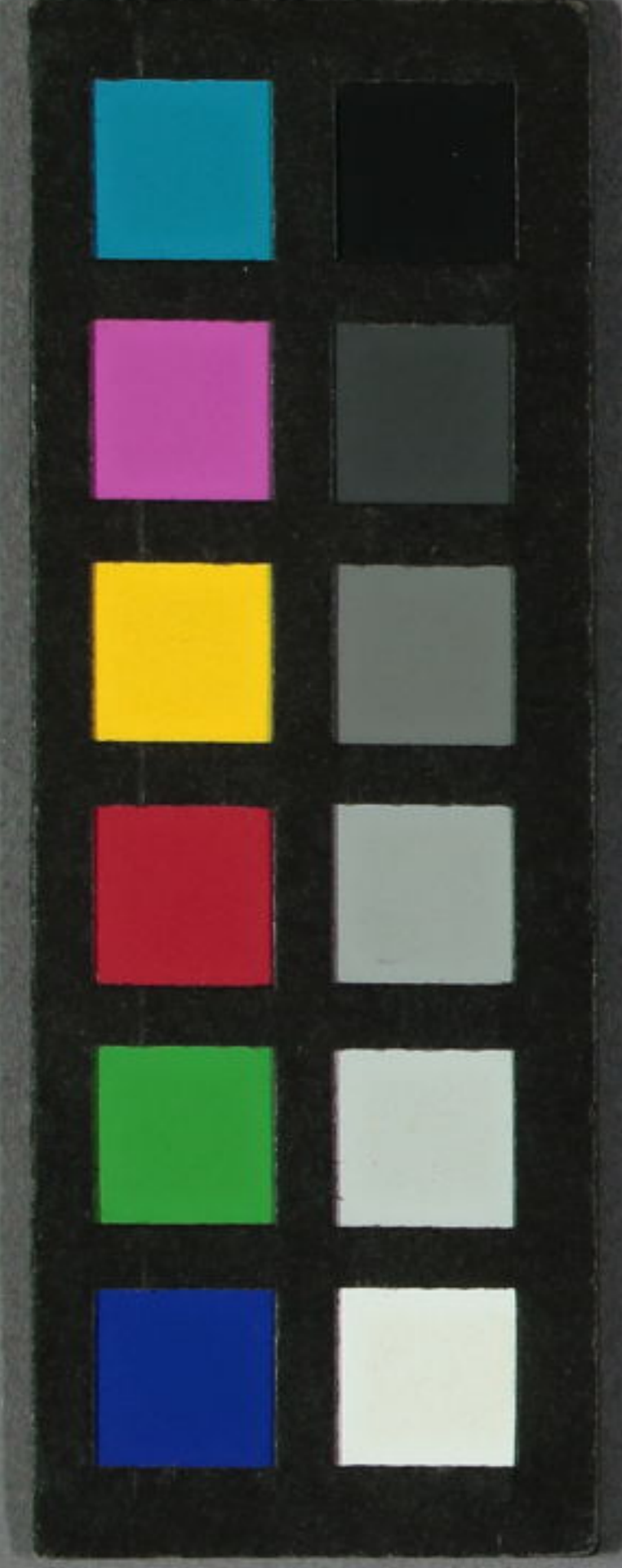
八笑人第四編

上

^ 13

3209

8



門へ 13
號 3209
卷 8

昭和十年
七月五日
購

楳田

序

この書は、
この笑人と、
小舟先生、
年移り、
非徒

特め、
この書は、
この笑人と、
小舟先生、
年移り、
非徒

登原、
この笑人と、
小舟先生、
年移り、
非徒

兄、
この笑人と、
小舟先生、
年移り、
非徒

乃、
この笑人と、
小舟先生、
年移り、
非徒

この書は

この書は

寸原可笑也。一家の風味をばらばらとて。
 眼の光りたるは。是が為に。はばばとて要す。
 あゝ滑稽の妙筆より。蜀を託然るに。
 拙人の篤實く。専ら世の人情をばらばらとて。
 かく綴りて。何れも勸喜あり。せむじ。
 毫と耕す。は。鑑をたす。銘を。書。

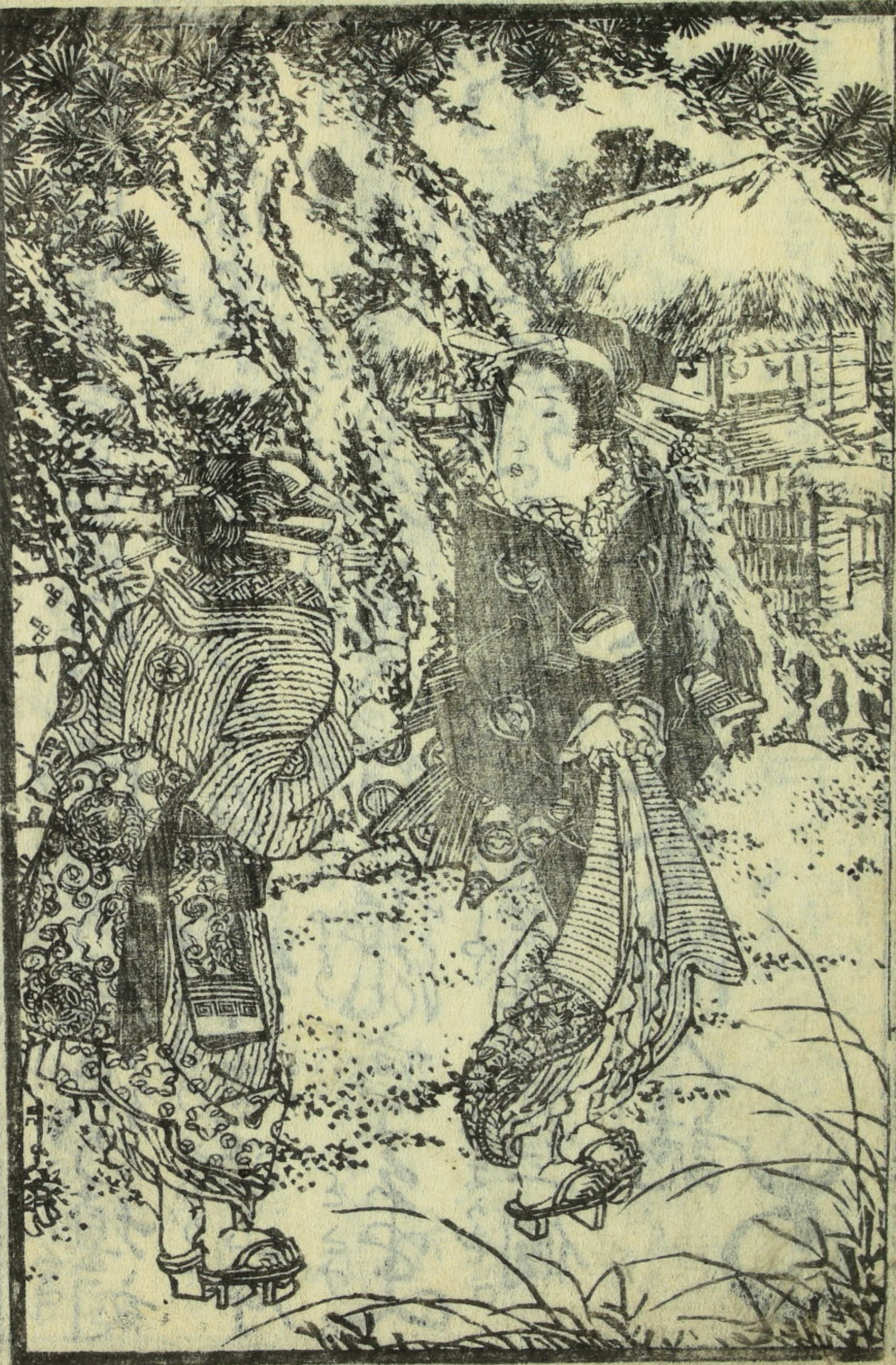
四角をりて。珍文漢語の遠就く。走る残
 止む。約の本履方。あるは。うら。渡り。と
 かの。好。好。て。皇國風をの。も。本。た。よ。
 海。の。人。情。史。の。著。を。存。ぞ。昔。と。き。ば。は。処。
 形。と。同。の。ま。あ。で。な。さ。は。は。比。する。方。函。
 圓蓋。の。る。が。ひ。方。中。の。よ。む。の。右。下。る。左。

眼七が通力
高田ゆ
蛭をどかす



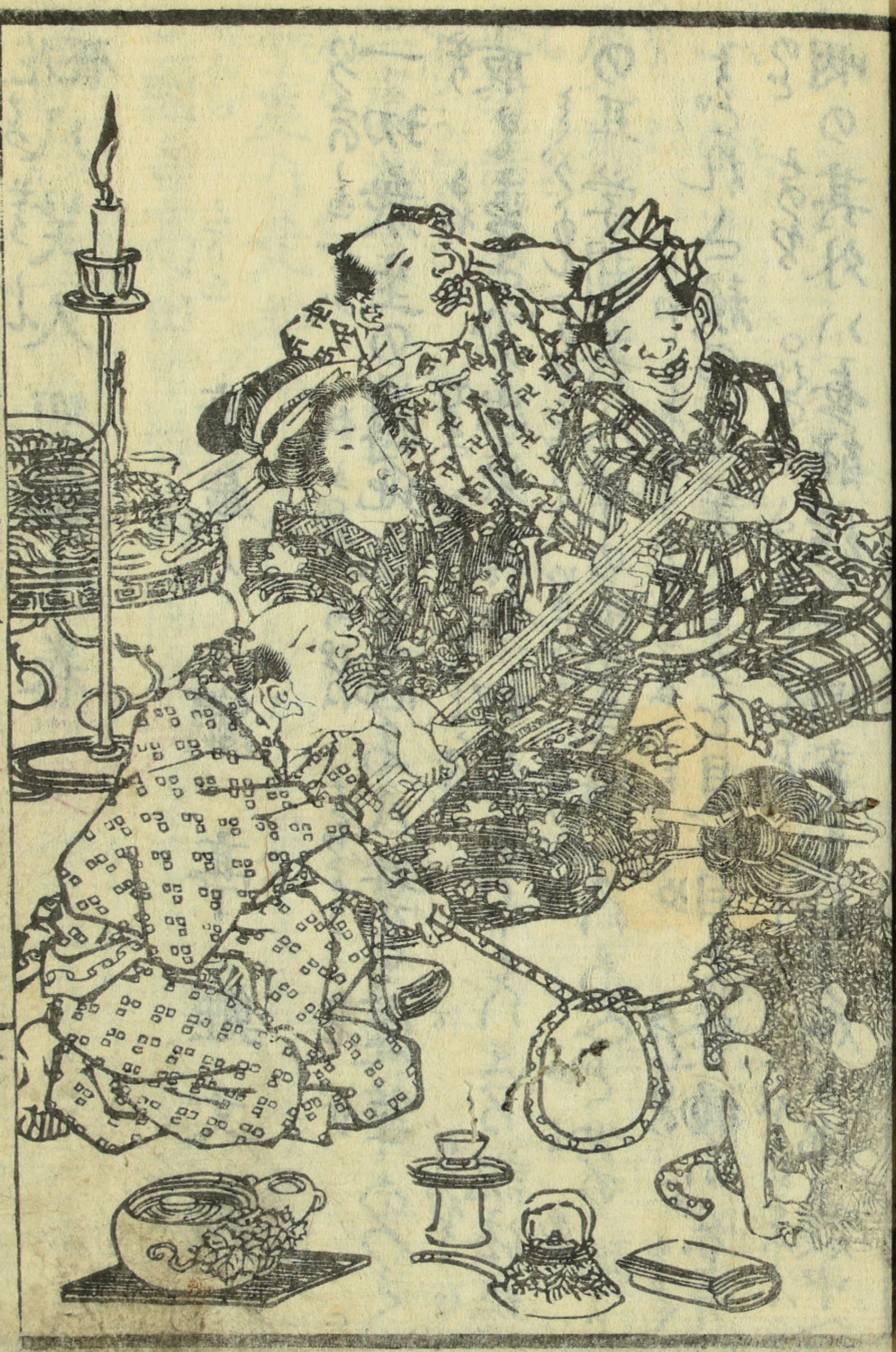
八笑人四編上

四



八笑人四編上

三



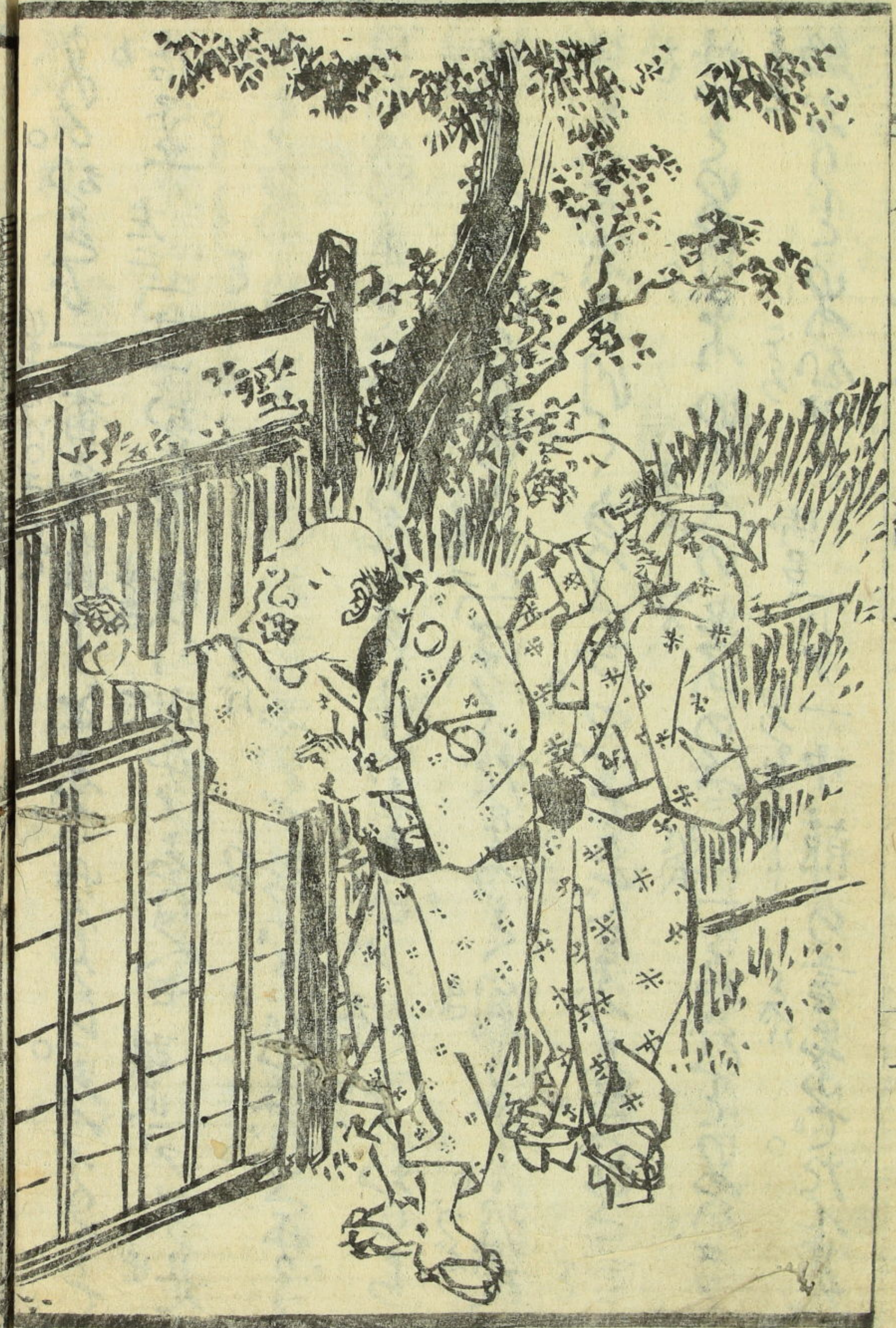
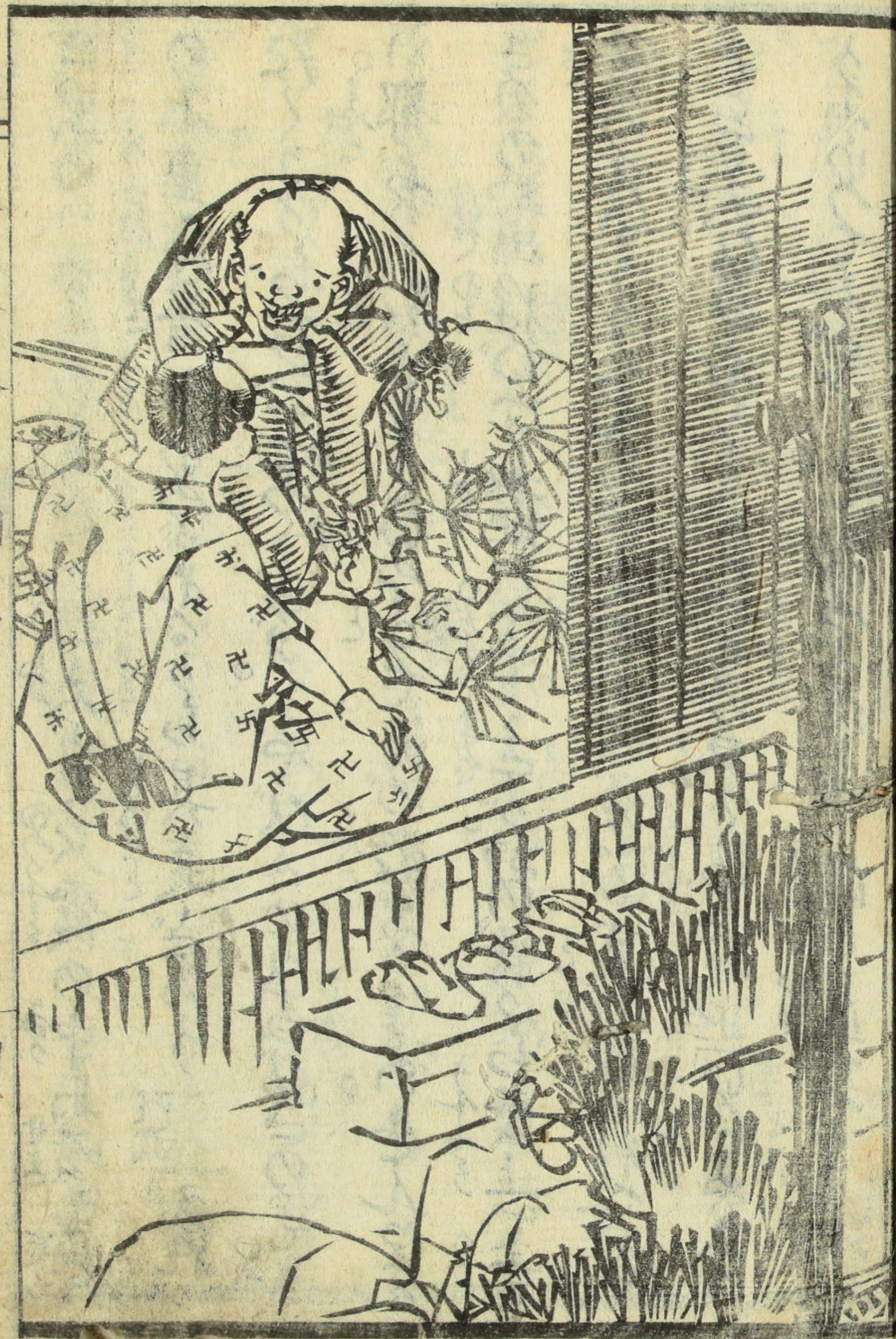
花八笑人四編上卷

童戯人 瀧 亭 鯉 丈 綴

一切衆生の薄地凡夫心八葉の蓮華ありて。取も亦さず出来合の如來多りて。説法場の耳学問其八葉の物なき數え六の世の垢よ。よこれと顔の八笑人女を見る目と食物ふ。咽の其外ハ無能極又何更も知ぬが佛殿中へ

池の邊の... 庵へ寄ると集ひ又もゆらり... 葉の横ぐさ... 三度惣身お流す... 今度ハ是非あつと世の知あを磨く光りも... 高田の強將... 左... 時... 如斯八人... 左... 二

花八笑人四編上



笑

口

口

笑

口

口

とりのへるんの変ト 大なる夕霞の中お咳せきも
のふ重こぢか夜着よろぎとりめがわらうら其変そのまどうう 既出すでに出「あれッ
たくらうらわ入いて多おほくぞう。まびこのひるびこのこと
川都かわつとどうひるの影かげありとりめのもまづねまうりとくきんん
さぬのお出い仕せびびすお地ちハ下くだくまがのぼくら雲上うんじやうで言
葉はづつひも。まらぐらと変まや。とんどのる変まのひるわ入いハサ。
そでまじひるぶついハハ。まづ早はやくひが 在ま「いんやまが
うおひてらいまいといく聞きく並なて入いついり。いん

ひるぶつとりのへ 眼まなこ「まん玉たまの黒くろいめのごろううッうまの
悪わるい変まをひるぶついのまん玉たまのよめごといめが 在ま「是これサマ
まをりけへいちやういのりいまいめる断たんん。其そのひる
ぶついとりのへ 既出すでに出「マま俗ぞくよいハ 在ま「いんや坊ぼくさいま
いいら本ほんといのい変まがい 既出すでに出「チちヨよッッまをりけい入いすいらい
そいう 在ま「アあめまいりいく。サいまいがいれいく 既出すでに出「何なんもいが
ういのい変までいれい入い田でん舎しゃ風ふうといのい変まサい 卒すつハ「ハはテてチちそれいでい
都みやこの方かたでい今いまのい振ふるい時とき痰たん咳せきといすいらいがいひるいびいのい

二ノ人 田島上

五

田舎の方で。尻でもひく。改まアツ。改まらるるわ入ッ。

たんせ死といひ。病とわらう。改め居るくら。田舎のいご

とりの妻。こよく聞。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。改め居るくら。

先左二えん野呂は卒を。何れも立派な者。あぐら
 だが。儲まゝの。野呂の。眼が。番ごころ。左二「そら
 らサ。重ごころ。卒ハイヤ。猿ごころ。テ。野呂
 びごころ。愛ハ。一チ。番順と。うけ。く。あ。ま。産。産。と
 きて。味方の。英氣と。ひつ。そ。よ。め。く。り。の。野呂。ハ。ン
 今の。疲。疲。の。め。ん。の。ご。り。あ。り。り。味。方。の。英。氣。が。ひ。つ
 居る。ご。ころ。眼七「ら。げ。へ。ね。ハ。ン。あ。い。り。多。當。分。出。る。け。ね
 へ。り。眼七「を。あ。の。と。あ。る。眼七「ア。ア。ア。咳。の。せ。え。ね。肉。ハ

通の。い。ご。り。の。眼七「チ。ツ。ツ。い。ま。ま。の。就。生。妻。で。も。吞。ム。産。エ
 眼七「サ。今。度。ハ。人。の。番。で。も。さ。て。一。回。で。も。自。身。が。取。り。ま。を
 勞。して。産。を。直。と。り。て。居。る。所。ご。今。と。て。遠。く。大
 莫。の。場。ご。出。目。眼七「そ。あ。り。り。と。見。る。と。早。中。に。も。と。存。い。れ。る。あ。ま。ね
 くら。大。辰。な。が。ら。也。國。妙。出。馬。と。う。テ。左二「東。西。く。も。ん。あ。が
 ぬ。ら。そ。あ。ま。ね。の。よ。う。ご。と。あ。り。て。見。る。と。又。外。の。て。あ。ま。ね
 度。い。れ。が。く。と。り。の。論。が。ひ。ね。く。ら。是。い。と。す。ま。が
 とも。ろ。ろ。眼七「り。ん。や。そ。あ。ま。の。え。ん。で。も。あ。れ。が。番。ご。ころ

三ノ巻ノ口紙

一六

伯樂

療治

このま

弓田

馬場

尻を

毛や

せー

夏虫



たひん

人々四

蛭

尻を

尻を

乃

高田

高田

右

七寶亭

杵盛



同くは酒を飲んたる下女は途をまづくよものさうよる
 志くろくてもいづ捨ぜのふりて上の方障子家飾(這
 入野呂)「タシよふらんふりやナ 眼六ナゼク 野呂(ろくろ) 黒いよふらご
 まう〜「夏をとりつらよふらんま 眼七 くらまうねく 本語
 のろより眼七ハ其(この)を何と詫宣めたる度敷て而
 終(お)家飾(お)其外(その)うま〜がらせまのよたのまのり
 るら〜 眼七 けいする作者(さくしや)ごちうれ〜がらせる夏(なつ)をり
 るら〜 眼七 せのふまつけねも鏡(かがみ)もか〜の 出(い)出(い)大方(おほ)それ

胸(むね)の腹(はら)ごころ 眼七 「うらやめておけよをまをぬごころさうぞ
 もいハ 左三 「マツト志(こころ)ら〜く〜イタなる〜あつたなるま〜ご
 マツ(ま)鏡(かがみ)とバわづらう。うら〜く〜聞(き)こられねま〜ご
 るお(お)鏡(かがみ)〜ま〜よ 眼七 「マツ(ま)志(こころ)ら〜ご〜せ〜す。それ〜ご〜ら〜ねん
 まり人(ひと)と〜ん〜びらねん 左三 「いさく〜度(た)言(こと)の
 夏(なつ)をま〜ら〜ちのら達(たち)ハ鏡(かがみ)の山(やま)産(う)まに居(ゐ)てご〜するの
 眼七 「あ〜方(かた)のや〜むの吞(の)ろ〜ら渡(わた)りせのふの雜(ぞろ)然(ぜん)そ
 うらにせ〜ら〜く〜堂(どう)と取(と)りて来(き)〜一(ひと)足(あし)を〜ら〜ねん〜これ



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

おひねり

ほのぼの

飛ぶ

人跡の

ぬい

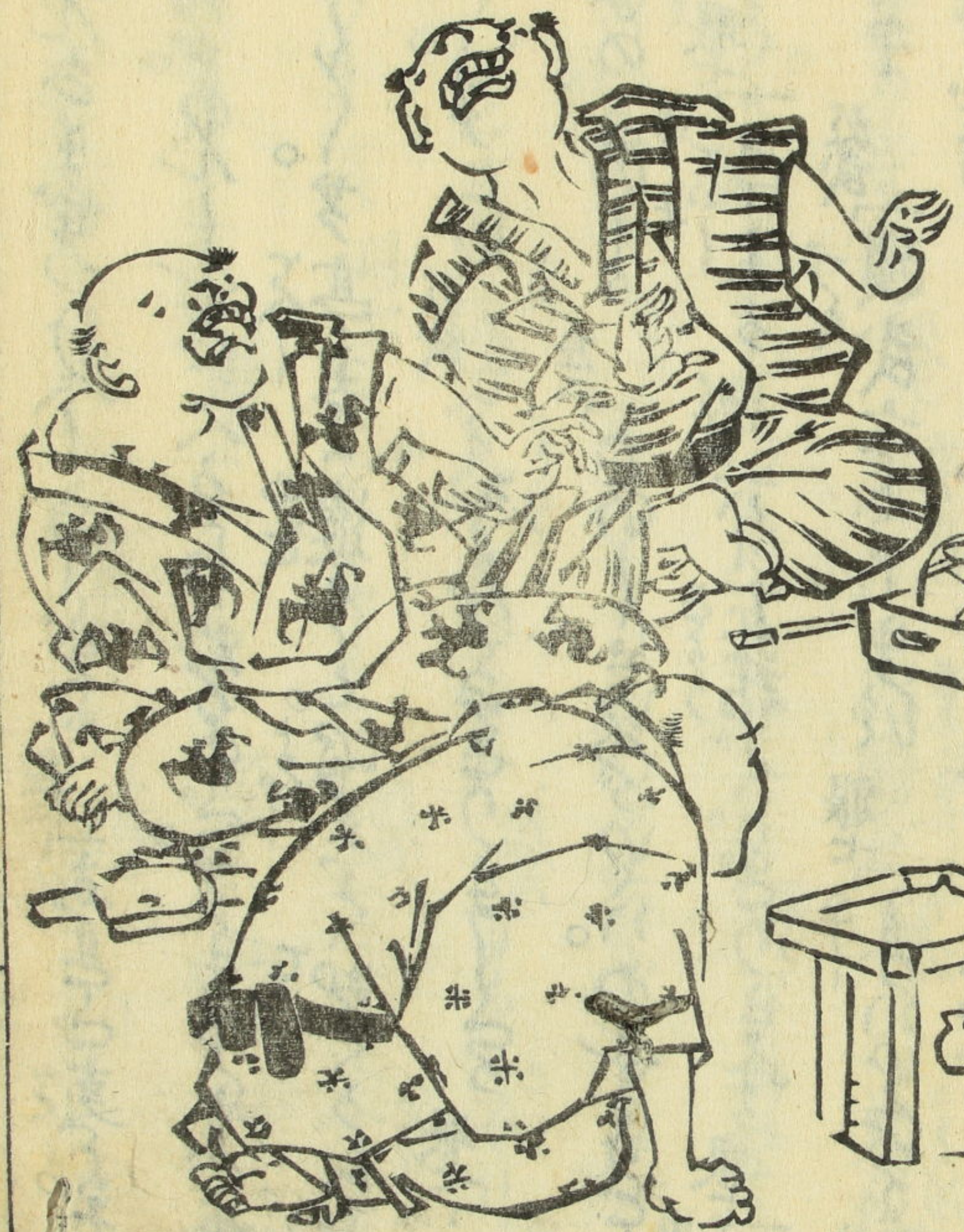
たふ

七宝亭

軒盛



七宝亭



眼七

「サえんまきりけり〜」 左三 「まきり〜」

よららら。ゆんちんあき〜」 左三 「まきり〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

「よし〜」 眼七 「よし〜」

下駄ハどろどろ 左三「そ古い」あやぐらぐらと早くさる
○そのうちものさう
廿八日徳長ののもので虫を押しつゝト 是等の研の
あつらひ雑後下
時とつりしぬ

花なな八笑人四編上巻終



